

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(教務)

I 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号

56

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。</p> <p>【めざす学校像】 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校</p>
2 分掌における現状の分析	<p>○どの生徒にも丁寧な学習指導を行うことができている。また、各教科で授業改善や観点別評価の研究が意欲的に行われている。</p> <p>▲学習指導方法の引き継ぎに課題がある。（継続性に課題がある）</p>
3 分掌の抱える課題	<p>よい実践や新しい教育情報の職員間における共有促進</p>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>(1) 教科の特徴を生かし、学習意欲を喚起し深い学びを得る授業の推進 (2) 学科の特性に応じた生徒の将来につながる授業の推進 (3) 授業規律・学習環境を大切にするとともに、見通しをもった授業を推進</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
教科指導	<p>① 「育みたい資質・能力を引き出せる観点別評価の研究」、「よりよい教育実践のためのICT(情報通信技術)の有効活用」を本年度の学習指導における全校統一テーマに設定し、学習指導内容の精選及び生徒の学習意欲の向上に努めます。</p> <p>② ①の推進のために、教員間の研修を重ね、さらなる授業の改善に取り組みます。</p> <p>③ 「目標を明確にした授業」「生徒が主体的に取り組む授業」「言語活動の活発な授業」を継続して実践し、その取り組みを高める支援を推進します。</p>	<p>① 教員の丁寧な指導により生徒の学習意欲が向上し定期考査ごとの成績不振生徒数が減少する。</p>	<p>① 定期考査においては、昨年度より成績不振生徒数は減少している。</p>	B	<p>数値目標は達成しているものの、タブレットの有効活用という意味で家庭学習の大切さが以前より増してきたが、家庭学習時間の確保がよりいっそう今後の課題である。</p>	B
		<p>② 県によるICTの有効活用の実践に関するアンケートで、県平均を上回る。（前年度はMetaMojiの活用が下回った）</p>	<p>② 県のICTの有効活用アンケートでは県平均を上回った。</p>	B	<p>ICT活用という意味では、本校は県平均以上であったが</p>	
		<p>③ 生徒による授業評価を実施し、授業への満足度が平均80%以上となる。</p>	<p>③ 満足度を1→5の5段階で回答してもらったところ、1年次普通科は多くの教科で4を上回ったが、それ以外は平均が3～4の間であった。教科によっては5と2が拮抗しているものもあり、個に合わせた授業の実施の難しさを改めて実感した。</p>	B	<p>漠然としたアンケートではあったが、全体として、授業への嫌悪感がないことはよかった。クラス内で学力差があることも含め個に応じた授業づくりのさらなる研究は課題である。</p>	

<h2>II 学校関係者評価</h2> <p>実施年月日：令和4年1月19日</p> <p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方の生徒に粘り強く寄り添う精神を持ち続けてほしい。 ・国公立への進学者を増やし、進学イメージを親御さんに植え付けるとよい。 ・タブレットを活用して生徒同士の学び合いもある。 ・何のために学んでいるのか。興味をもてる授業構成を！ ・探究する意欲、そこに学びの楽しさを見出せるとよい。 	<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の重点目標も今年度を引き継いで深化させていきたい。 ・教員は、「授業で勝負」の心構えで、生徒は、「授業で学習への興味をもち、家庭学習で学力をつける」、そういった学習支援ができるよう、ICT活用等教員側の仕掛けを大事にする。 ・生徒のメタ認知力を鍛えるアンケートをとる。
---	--

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(進路)

I 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号

56

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。</p> <p>【めざす学校像】 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校</p>
2 分掌における現状の分析	<p>○地元企業ガイダンスなどの地域と連携した取組による地元就職者数の確保（56%）と就職率100%の達成、分野別ガイダンスなどの進路行事による生徒の進路意識の向上</p> <p>▲将来を見通したキャリア教育の推進</p>
3 分掌の抱える課題	<p>学科別・コース別に多様化する進路指導におけるキャリア教育の充実</p>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>(1)情報提供・ガイダンス機能の充実 (2)キャリア教育の推進 (3)地域を活性化する人材育成</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
進路指導	<p>① 地元企業ガイダンスや進学ガイダンス、職場体験学習、企業見学会、パネルディスカッションを実施します。</p> <p>② キャリア・パスポートを活用し、学校生活を通して、進路および卒業後のキャリアに必要な能力を養成します。</p> <p>③ 保護者対象進学・就職説明会や、地元企業ガイダンス、地元企業の方による模擬面接を実施します。</p>	<p>① アンケートを用いての学校評議委員、保護者、生徒による進路関係の項目の評価が向上する。</p>	<p>① コロナの影響により、オンラインではあったが、6月に3年生対象の進学・就職ガイダンスを行うことができた。職場体験以外は実施することができ、進路意識の向上を図ることができた。</p>	B	<p>○進路について真剣に考え、自ら情報を求め、情報を比較して考える姿勢が身に付いた。</p> <p>▲オンライン実施が多く、対面で相手とコミュニケーションを取り、情報を得る経験が少ない。</p>	B
		<p>② 生徒が学校生活の中で目標を定め、行動を起こし、それを振り返ることで、自らの成長を実感することができる。</p>	<p>② コロナの影響により、修学旅行や遠足、文化祭などが中止となり、貴重な経験の機会が失われたが、学期ごとに目標を立て、反省することができた。</p>	B	<p>○全生徒が、学期ごとに目標を立て、反省をする機会を持つことができた。</p> <p>▲学校生活の中で身に付けた力を、どのように進路や社会で活かすかを意識する必要がある。</p>	
		<p>③ 行事に招く外部講師や保護者による本校に対する評価が向上する。就職地元定着率が向上する。</p>	<p>③ 地元企業の協力により、地元の良さを知る機会を得た。民間企業就職者の約60%が地元就職をした。</p>	B	<p>○地元企業、ロータリークラブ、商工会と連携を図ることができた。</p> <p>▲進学者に対して、Uターン就職を推進するガイダンス等が必要である。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月19日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部人材・組織の活用は大切である。地元企業との連携により、地元就職60%は大きな成果である。 ・Uターン就職も視野に入れた指導を進学者にもしてほしい。 	<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を更に推進する。 ・引き続き地域との連携を大切にし、地元就職やUターン就職を含め、卒業後の地域貢献を促す取組を実施する。
--	--

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(生徒指導)

I 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号

56

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。</p> <p>【めざす学校像】 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校</p>
2 分掌における現状の分析	<p>○学年会・各分掌・管理職・他の機関との連携を通じて、情報共有しスムーズな対応・運営ができています。</p> <p>▲不登校や発達障害等に対する知識不足により、対応が遅れる。個性を理解し、学校・家庭・外部機関等と連携を密にすることが大切である。</p>
3 分掌の抱える課題	<p>問題行動や不登校生徒を最小限に抑える未然防止活動や研修等を充実させる必要がある。また、保護者対応と外部機関を利用した改善策を考える必要がある。</p>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>(1) 学校規律、授業規律の確立 (2) 自他の人権や生命を尊重する意識の確（いじめ・暴力行為防止、情報モラル徹底） (3) 問題行動等（いじめを含む）の未然防止と事後指導</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導	<p>①登下校指導、身だしなみ指導、時間厳守、忘れ物、授業態度などについて、職員の意思疎通を図り、生徒に指導します。</p> <p>②いじめ調査や生徒観察により、職員の共通理解を図り、情報共有することにより、いじめの早期発見早期解決に努めます。また、情報モラル教育を充実させ、情報モラル(SNS)意識を高めます。</p> <p>③ 問題行動の未然防止に努め、生徒への指導を行います。また、関係職員との連携を密にし、事後指導まで粘り強く行います。</p>	<p>①規範意識を持って、落ち着いた学校生活が送れている。また、正しい服装の着こなしができています。</p>	<p>① コロナ禍で多くの職員が協力し、昇降口指導を行い、日々の活動が生徒の規範意識を高めている。また、着こなしの面でも、理解が得られていると感じる。</p>	B	<p>○多くの職員が昇降口指導に協力し、登校の様子を確認できた。 ▲生徒主体となるような、校則見直しを積極的にできるとよかった。</p>	B
		<p>②いじめ問題や情報モラル問題が発生しない。特にSNS等を使った画像（製造・所持・ばらまき）や誹謗中傷がない。</p>	<p>② 今年度、啓発活動等の効果もありSNSの問題は少なくなった。いじめに関しては、アンケート等により早期に対応できた。しかし、生徒間のコミュニケーションがうまく取れずトラブルにつながるが増加した。</p>	B	<p>○タブレットでアンケートを実施するようになり、早期に情報が集まり、指導をしやすくなった。また、SNSの問題は少なくなった。 ▲いじめにつながるコミュニケーション力を養う必要がある。</p>	
		<p>③問題行動の件数が減少する。同じ生徒が繰り返し問題行動を起こさない。</p>	<p>③ 啓発活動を通じて、未然防止に努めた。また、職員の共通理解を推進し、日常生活で注意喚起をこまめに行った。</p>	B	<p>○職員の共通理解が図られ、日常から啓発を行うことできた。 ▲未然防止の活動を生徒主体で実施できるとよかった。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 4年 1月 19日

<p>【意見・要望・評価等】 校則を全て生徒に任せている学校もある集団で学んでいること、今後社会に出たときにどういった考え方が大切なのかを校則を考えることで学べるとよい。SNS関連については、現在はトラブルもなく安心してしまいがちだが、表に出ていないだけかもしれないという緊張感が必要である。</p>	<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート等をタブレットで実施し、迅速に情報共有し指導したい。 ・生徒主体でいじめ未然防止活動を実施していきたい。 ・学校、外部機関との連携を深め、マナーを重視した生徒指導を進めていきたい。
---	---

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(特別活動)

I 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号

56

1 学校教育目標	【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校					
2 分掌における現状の分析	○生徒主体で生徒会活動がなされ、学校発展のために貢献しよく努力している。また、ボランティア活動など、地域への協力を積極的に行っている。					
3 分掌の抱える課題	・他の分掌等との連携、分掌内の情報共有をすすめ、分掌業務のスリム化を進める必要がある。 ・生徒の減少による予算額の縮小に対応する必要がある。					
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 生徒会活動を活性化する (2) ボランティア活動を通して地域へ貢献する (3) 部活動、学校行事に真剣に取り組む姿勢を啓発する					
年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
特別活動	① 学校行事(対面式、球技大会、文化祭)への取り組みを通して、生徒が自発的、自治的に考えて行動できるように支援します。地域との連携を意識して活動します。	① 行事の取り組みが生徒主体となっている。自ら考える姿勢、現状に満足せず改善しようとする姿勢が生徒にみられる。地域連携を深めていく意識が見られる。	対面式と文化祭はコロナ対策のため実施できなかった。 球技大会については、生徒の自主的な取り組みを、効果的に支援することができた。	B	文化祭を中止としたのは残念だったが、準備を進めるなかでは生徒の自主性を重んじた活動が見られたのは成果であった。 次年度はなんとか実施したい。	B
	② 部活動への自主的な取り組みを通して、生徒が自ら成長できる機会と実感が得られるよう支援します。地域との関わりを意識して活動します。	② 部活動への取り組みが生徒主体になっている。部活動を通して人間性を高め成長しようとする意識・姿勢が生徒に見られる。地域と連携した活動が見られる。	部活動は、全体的に活発に取り組んでいる姿が見られる。時節柄、地域と連携した活動は難しいが、中学校との練習試合などの活動をする部もあった。	B	活発な取り組みが見られる反面、活動になじめず退部する生徒も見られたのが残念である。3年間継続できる方策を研究する必要がある。	
	③ 生徒会執行部を中心としたボランティア活動への自発的な参加を促し、地域社会の一員としての自覚を深め、地域社会と積極的に関わろうとする姿勢、地域に貢献する心を育てます。	③ 地域社会の一員としての自覚が生徒に見られる。地域社会と積極的に関わり貢献する意識を持ち、実際の行動に移せている。	外部との関わりを持つ活動がしにくい状況下であったが、独居老人宅への年賀状作成の取り組みをおこなった。	B	対人活動が大きく制限されるなかでも取り組める活動を研究していく必要がある。	
II 学校関係者評価 実施年月日：令和4年1月19日			12 来年度に向けての改善方策案			
【意見・要望・評価等】 コロナ禍で大半の行事が中止され、生徒同士の力や学びを発揮する機会が減っている。 部活動は、各部が明確な目標を設定し、粘り強く取り組ませる指導の継続をお願いしたい。			生徒会組織や学校行事について、学校規模や生徒の気質に合ったあり方を研究し、できることから改善したい。 部活動については、土日の外部移行をふまえた活動のあり方を研究したい。			

【別添2】（様式例1）

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（保健安全）

I 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号

56

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。</p> <p>【めざす学校像】 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校</p>
2 分掌における現状の分析	○感染症対策を中心にして日々の健康管理に対する実践を組織的に推進しているなかで、個々の健康管理への意識と取り組みが向上した。
3 分掌の抱える課題	学校生活の全般において、命・健康と安全に対する意識づけをより意図的・総合的におこなう活動。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 心身の健康についての知識と実践する力の養成 (2) 「生命を守る」訓練、「助け合う」行動に繋がる教育の推進 (3) 安全面等での地域と連携

年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
保健安全	① 自らの身体と精神の健康を考え、生活を見直す保健安全教育、感染症予防のための保健指導に取り組みます。 ② 多様な災害に対し、自らの生命を守り、適切な判断・行動のできる生徒の教育に取り組みます。 ③ 環境美化に関わり貢献できる生徒の行動習慣を身につけ、地域の避難拠点としての学校づくりに取り組みます。	①心身の健康に関わる諸調査を実施して判断する。	①社会的に感染症に対する日常の健康観察・管理の意識が高まり、個人の行動制限についても定着しつつある。学校としての組織的対応について県の方針に従い固まりつつある。	B	○スマホを活用しての体調報告を活用することで、日常の健康観察と体調把握の簡素化ができた。体調が悪い場合には医療機関での診察の上、家庭で静養行動が定着してきた。	B
		②学校の体制づくり、訓練または教科における指導などを総括的に評価する。	②集団での実際の命を守る訓練は感染症拡大の予防策の一環として実施することができていないが、事案対応での指導をおこなった。	B	○感染症・防災意識について実際に考え対応する場面が増えてきたことで、事案対応を身近なものとして学ぶ意識が高まっている。	
		③環境美化に対して生徒会活動による見直しを行い、外部の要望に対応、評価を参考に判断する。	③校外での活動を意図的に控える中、社会貢献との関わり合いを模索しながら、校内での衛星管理・環境美化活動を充実させていく。	C	▲集団としての関わり合い意識を高めるための問題点の発見や実施訓練による高校生の果たすべき役割の自覚等については定着させるための工夫が必要となる。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月19日

12 来年度に向けての改善方策案

<p>【意見・要望・評価等】 コロナ対策・対応は今後も続くことが予測されるが、心身の健康のための取り組みを継続してお願いしたい。心の健康のためにも、適度な身体活動の場面をつくっていくことも必要である。スマホアプリを利用した健康チェック・体調把握はとても簡素化でき有効な方法である。精神的な悩みも投稿できると生徒の出すサインを拾うことができ更に良い。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症への対策は、今後も変化を求められながら継続的に進めていくことになることが予測される。学校対応としての感染症対策は当然実施していくが、教員の監視下以外の場面での感染対策を通して、生徒自身が集団の安全のために果たすべき役割を意識しながら行動ができるようになるための働きかけを心掛けたい。そのうえで、自粛から自律をふまえた積極的活動の援助ができる教育活動へシフトしていきたい。その場、その時、その状況において大切にすべきことに焦点を絞っていくことが重要であると考えている。</p>
--	--